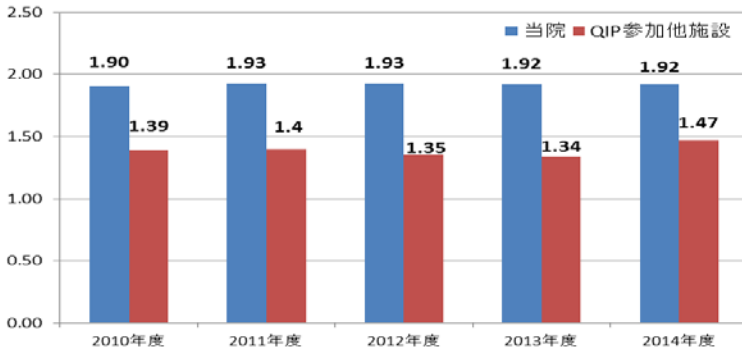


診療情報管理委員会ニュース

(臨床指標報告)

VOL. 18 2015年9月 診療情報管理委員会

【血液培養 1 患者 1 日あたりの平均実施セット数】



分子：血液培養オーダー回数 ※QIP 指標 (DPC データ使用)
分母：血液培養オーダー日数 (人数)

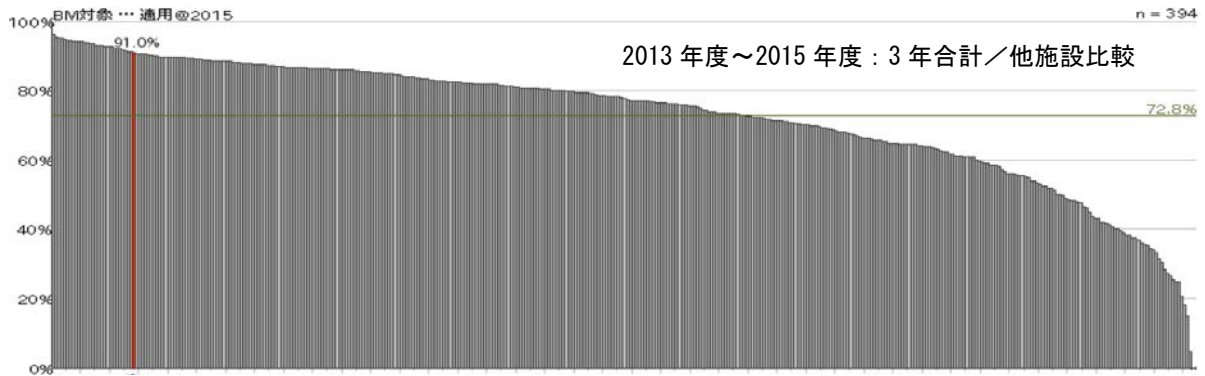
＜血液培養検査とは？＞

- ▼採取した血液を培養することにより、血液中に感染を引き起こす微生物が侵入しているか否かを調べる方法。
- ▼その結果により、感染の原因となっている菌が特定でき、抗生剤の選択など適切な治療方法に結びつける事ができる。

【意義】

- 血液培養は菌種によって1セットのみの場合、真偽の判断が付きません。従って2セット行う事が推奨されています。

【肺炎に対する入院後 3 日以内の血液培養実施割合】



※girasol 指標 (DPC データ使用)

分子：入院から3日以内に、微生物学的検査を行っている症例

分母：「医療資源を最も投与した傷病名」がMDC6の「040080(肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎)」もしくは、「040081(誤嚥性肺炎)」に該当する症例

【意義】

- 市中肺炎(CAP)においては、初回の抗生物質投与前の血液培養を行う事が推奨されています。今回は、分析のため使用したソフト上、入院日から3日以内という変則的な定義となっておりますが、同ソフトを使用している他施設との比較グラフを載せております。

【結果】

- 血液培養実施セット数を見ると、ほぼ2セットの実施が出来ており、また、他施設平均と比較しても高い数値を維持しています。
- 肺炎に対する血液培養実施割合では、同一条件での他施設比較でも上位に位置しています。
- 感染症に対する起病菌の同定と抗生剤選択が正しく行われる事で、患者予後の改善・入院日数の減少・抗生剤の不適切使用の防止に繋がります。